

### 第 3 回 練馬区立大泉第二中学校の教育環境保全および都市計画道路の整備に関する 有識者委員会 議事概要

日 時：平成 28 年 7 月 19 日（火） 18 時 00 分～19 時 10 分

会 場：練馬区役所西庁舎 9 階 9-1、9-2 会議室

出 席：

委員（50 音順）

安藤委員、大沢委員、大羽委員、久保田委員、神山委員、葉養委員、宮下委員

（欠席：柳澤委員）

事務局

小山計画課長、大野計画課まちづくり担当係長（その他関係部課）

#### 次第 1：開会

（委員長にて開会）

#### 次第 2：第 2 回有識者委員会について

（事務局から資料 1 について説明）

#### 次第 3：資料説明

（事務局から資料 2、3 について説明）

#### 次第 4：討議

委員長

説明資料毎に委員の皆さまから、ご質問、ご意見等があればお願いします。

地域の現状について（災害時の対応、防災）ご質問、ご意見等があればお願いします。

委員

今回の資料における災害の前提は「大規模地震等による建物倒壊」でよろしいか。

事務局

今回の資料は、「道路閉塞」や「道路啓開」について「練馬区地域防災計画」を基に作成しており、地震による災害を前提としています。

委員

昨今、ゲリラ豪雨被害が増加しているが、検討区域では内水水害などの洪水関係の影響はあるのでしょうか。

事務局

浸水に関しては、練馬区は浸水ハザードマップを作成しています。これは、平成 12 年 9 月の東海豪雨の降雨量を想定してまとめたもので、都内河川流域の浸水予想区域図を基に作成をしています。浸水ハザードマップによると、調査地域において懸念される大きな被害想定

はありません。

委員

地域防災計画にある大規模地震関連の被害を重点的に考えた方がいいということによろしいでしょうか。

事務局

調査地域の課題を考える上で、その方向性によろしいと思います。今回の検討課題対象である大泉第二中学校は、避難拠点に位置付けられており、学校教育にプラスして避難拠点にもなっていることもあるので、本資料をご活用いただければと考えております。

委員長

避難拠点である大泉南小学校や大泉第二中学校が消防活動困難区域に含まれているが、避難拠点と消防活動困難区域の関係はどういった議論がなされているのか教えて下さい。

事務局

調査地域においては、避難拠点としている小中学校が、消防活動困難区域内に位置しているのが実情です。

委員

本来、避難拠点が消防活動困難区域にあるのは望ましくありませんが、練馬区の小中学校は全て避難拠点到指定しているため、消防活動困難区域に避難拠点到指定される場合もあります。また、防災訓練をする際は消防活動困難区域内の避難拠点到災害時に使えない場合もあることを想定し、行っています。

委員

災害時の液状化現象等を視野に入れ、地盤データがあれば教えていただきたい。

事務局

練馬区は現状では地盤について大きな懸念はありませんが、河川の近くを含め、一部懸念される箇所もあるので、調査区域の状況報告を含め、次回以降に資料を用意します。

委員長

資料3 教育および施設についてご質問、ご意見等があればお願いします。

委員

教育委員会での練馬区小中一貫教育推進方針の取り扱いを教えてください。

事務局

推進方針は教育委員会でも報告しており、今後の進め方の方向性ということで示しています。今後、小中一貫教育校をどこに作るか等は、これからの検討課題となっています。

委員

小中一貫の区切り方は6・3でいくということを取りまとめがされています。練馬区では施設一体型や施設分離型などのハードの部分についての議論はほとんどなされていないが、今後教育委員会ではどう考えていますか。

事務局

小中一貫教育については、大泉桜学園の施設一体型がありますが、中学校を基盤として、従来の小学校と中学校の連携接続をメインに一貫教育を進めています。小中一貫教育校の開設に

については、1年生で入った生徒がまだ9年生になっていないため、最終的な成果はまだ見えづらいところがあります。

一貫教育を進めて行く中で、小中学校の教員の共通理解が進んでいます。また、小学生と中学生と一緒に学習活動を行うことは、生徒の意識向上や学校生活における満足度向上に繋がっていますが、大きな変化は明確にはまだ出ていません。

施設一体型に比べ分離型の小中一貫教育校の方が難しいが、全ての中学校区で研究グループを含めて連携接続の小中一貫教育を進めています。その中でカリキュラムの開発や、出来る範囲内での小中学校の交流を通じて、その効果の確認を行っています。

施設分離型において、小学校と中学校の教員が一緒になって、地域の子供たちをどのように育てていくのかという視点が徐々に明らかになっており、その中でできる範囲の中でやってみようとする機運は高まっています。あとは学校評価等の中でそういったものが実際どうであるかを今後検証していく必要があると考えています。

委員

施設保有状況について、一人当たりの面積が練馬区の平均を下回っているが、中学校の設置基準を満たしているのでしょうか。

事務局

設置基準に一人当たりの面積基準は定められていません。

委員

中学校が避難拠点に指定されている現状を踏まえ、中学校を配置する上での通学区域の考え方はあるのでしょうか。

委員

学区域の中心に学校が配置されていることが望ましいと考えますが、練馬区において、昭和30年から40年代に人口の急増期があり、年間に10校程度開設したこともあります。その際に、土地を求めることに非常に苦労し、隣り合わせで学校を設置したケースもあり、学区域の中心に学校を配置することは困難であったため、現在の学区域となっています。

今後、子供の人数の推移を見極めつつ学区域の微修正を加えることも考えられますが、学校を中心としたコミュニティの課題もあるので、地域と相談しながら検討していきたいと思えます。

委員長

大泉地域は練馬区の中でも生徒数が上位の学校が多いが、生徒数に対して中学校数が少ないため、一校当たりの生徒数が多いという理解でよろしいでしょうか。

事務局

大泉地域は、ほかの地域に比べると、多少窮屈な教育環境といえるかもしれません。

委員長

「将来の地域別年少人口（0歳～14歳）の推移」をみると、大泉地域の年少人口が年々減少する予測になっている一方、「大泉第二中学校および周辺中学校の学齢児童数の推計」をみると今後12年間の生徒数がほぼ変わらないようにみえるので、関係性を教えてもらいたい。

事務局

大泉地域の北側（大泉学園町、大泉町）は人口減少が多い地域ですが、大泉地域でも石神井地域に近い南側は、年少人口が極端に減少しない地域となっています。

委員長

現在の校舎は昭和 50 年竣工となっていますが、耐震工事は終わっていますか。

事務局

校舎の耐震補強改修工事は平成 23 年に完了しています。

委員

体育館の耐震工事の状況を教えてください。

事務局

体育館は平成 17 年に耐震補強工事が完了しています。また、武道場につきましては、新耐震基準で造られているので耐震的には問題のない建物だと考えます。

委員

授業時間に災害が起きた場合、生徒、教員等のかかりの人数が避難拠点である中学校に留まることになると思います。さらに地域の住民が中学校に避難してきた場合、避難拠点として機能できなくなるのではないのでしょうか。

事務局

地域防災計画において、多摩直下地震（M7.3）規模の発災 1 日後で避難者は区内で最大 76,900 人を想定しています。これらの避難者は、練馬区内の避難拠点全体で考えると、全て収容可能となっています。万が一避難者が避難拠点の受け入れ人数を上回った場合、他の区立施設やあらかじめ協定を締結している周辺の都立学校等を避難所として活用することになっています。なお、この地区では、学芸大学附属小・国際中等学校と個別の協定を結んでおり、万が一の場合は、避難所として活用する予定です。

委員

区政改革計画（素案）における区立施設とは、学校のみでなく、区が所有する公益的な施設も含まれていますか。

事務局

学校のみではなく、庁舎、体育施設、図書館、その他すべての区立施設を対象としています。

委員

今回の調査区域に、区立施設は存在していますか。

事務局

前回提示した、資料 3-2「公共施設の配置等」で区立施設を示しています。

委員

将来的に調査区域内において統廃合を検討する施設があるのであれば、建て替えに合わせどうすべきか議論する必要があるのではないのでしょうか。

事務局

区政改革計画（素案）は、区立施設全体の考え方を示したものです。今回は学校に関する資料のみですが、区立施設全体の中でこのような考え方で進めていく方向性なので、そのよう

な議論も場合によっては必要と思います。

委員長

学校の統合といったフレーズをみると中学校の統合があるのかどうかという話になるが、この地域はかなり窮屈な状態にあることを考えると、なかなか現実的ではないかもしれません。小学校の生徒数と、統合の可能性はあるのか教えてもらいたい。

事務局

この近辺の小学校も多数の学級数を抱えているところがあります。そのため、小学校の統合もなかなか難しいところがあると思っています。

委員

小さい子供がたくさんいる地域ということなので、子供たちが地震等の災害にあった場合など、防災面での区の対応を示してもらいたい。

事務局

地区の課題の一つは、避難拠点への経路や道路啓開などの災害時の対応であり、もう一つは普段の消防活動等の日常の防災に関することです。今回は消防活動困難区域をお示ししましたが、さらに地区の課題等は必要に応じて資料をご用意したいと思います。

委員長

今回を含め3回の委員会でもかなり詳細に、各方面のデータをお示しいただいたので、第4回以降は議論の進め方の方向を定めていく時期に来ていると思います。ここまでの3回の議論を踏まえ、今後どういう議論をすべきか、何かご提案等がございましたらお願いします。

委員

これまでの検討を踏まえると、今後、都市計画道路の整備および大二中の教育環境の保全策の検討を始めるパターンがいくつか出てくると思います。前提条件や防災の観点からもいくつか都市計画道路の整備と大二中の教育環境の保全を議論する、ある程度のキーワードが出てきたと思うので、それを踏まえてパターンを整理できる資料があるといいのではないのでしょうか。

事務局

今後検討を進める上で、パターンを整理した資料を委員長とも相談しご用意させていただきたいと思っています。

委員長

ほかに何か今後の進め方について提案や、事務局への資料の注文はありますか。

委員

大二中の校舎や体育館等の改築や新築といった予定はありますか。

事務局

現在のところ、明確な改築の計画はありません。

委員長

次回は今後の考え得る対応パターンを作っただいて、各々について可能性を具体的に議論していく方向で進めていきたいと思っています。

## 次第5：その他

委員長

事務局から何かありますか。

事務局

本日も要望資料がございましたので、委員長をはじめ専門の各委員の皆さんのアドバイスをいただきながら資料を作成して、次回以降お示しをしていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

委員長

今日要望に上がった資料を事務局にご用意いただいて、9月頃に第4回を開催したいと思います。

## 次第6：閉会

委員長

以上をもちまして、第3回有識者委員会を終了します。

以 上